

で、自分が暦に関する専門知識を欠くために、何か初歩的な誤りをやっているのではないかと思惑うであろう。かくしてその研究者にとっての貴重な時間が浪費される。このような点から考えても、今後の international ephemerides は、従来よりはるかに厳密性が要求され、また誰が計算しても（用いる計算機の性能の許す限り）その値が得られるものでなければならない。

以上の点から、現在の AE 第1部の international ephemerides としての適格性に疑問を感じる。それで、現在 IAU が採択している暦推算の基準に厳密に忠実な暦を掲げるために、1980年以降の天体位置表の第1部には、AE の値に代えて、JHD の推算値を採ることとした。近い将来、早ければ1984年から、天体暦には IAU (1976) 天文定数系および新しい惑星運動理論を導入することになっている。このような天体暦の変更が行われるときには、新旧両者の関係を明らかにしておかなければ、後日の混乱の原因となる。1980年からの天体位置表は、それが過渡的（天体暦の連続性からは、決して好ましくない）とはいえ、現行の基準に忠実な唯一の暦ということで、来べき移行に備えるための必要な段階といえよう。

1980年からの天体位置表における主な改訂事項は次のとおりである。

(i) 小惑星の日心直角座標以外は、すべて水路部の推算値を用いる。とくに太陽・内惑星の暦は、それぞれのニューカム表の表値によらず、原式から計算する。

(ii) 小惑星セレス・パラス・ジュノー・ベスタの日心および地心球面座標を加える。

(iii) 歳差に関する定数および太陽の赤緯と直角座標は、従来、前半は年初の、後半は次の年初の座標系に基づいていたが、これを併せて年央の座標系に基くものとする。基準を年央に採ることは、既に1962年以来、恒星日度数について天体位置表に採用されており、暦関係の間では Japanese System と呼ばれ、近い将来、年刊として刊行される AE の略暦にも、この方式が採られるようである。

(iv) 推算はすべて IAU (1964) 定数系に基づいて行う。したがって、これまで巻末の説明の項に掲げていた定数系変更に関する補正式は削除した。

このほか、巻末に1981~85年の日食に関する概略の予報を付録として掲げた。これは日食観測計画の立案に供するもので、この種の予報は従来アメリカ海軍天文台の Circulars に掲げられていたが、最近それが遅れているので、これに対応する処置である。1981~83年版に順次、各5年分(2000年)までの予報を掲げる予定である。

従来、天体位置表はその前々年末に刊行していたが、今回は上述の改訂作業、例えば磁気テープデータから直接に写真植字による製版原稿を作成する作業、のために若干遅れて去る3月末に刊行された。入手を希望される方は、〒104、東京都中央区築地5、海上保安庁水路部内、日本水路協会サービスコーナー（電話03-543-0689）へ申込みたい。定価6000円。

本文第1節については

秋吉利雄(1954): 航海天文学の研究, 恒星社
および筆者(1969, 1971)による天文月報62巻11号,
64巻11号の記事を参照されたい。

第2節・第3節の詳細については

井上圭典(1977): 月の暦のプログラム, 水路部研究報告, No. 12, pp. 59-74.

Sinzi, A. M., Inoue, K., Kubo, Y., Aoki, Sh., Kinoshita, H., Nakai, H. (1979): Present Status of the Astronomical Ephemeris, 水路部研究報告, No. 14, pp. 93-129.

を参照されたい。

お知らせ

第12回日本アマチュア天文研究発表大会

日時: 昭和54年9月30日(日) 9時30分より

場所: 東京新宿 工学院大学

研究発表および宿泊申込: 8月15日までに

東京都台東区上野公園, 国立科学博物館内

村山定男 宛

(Tel. 03-822-0117)

正誤表: 本誌1979年5月号, 故萩原雄祐先生略歴(124頁)の左段の一番下に間違いがありましたので訂正します。 正一位→正三位

☆ ☆ ☆
☆ ☆